

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
青梅市教育目標

学校の教育目標

- ・努力（粘り強さ、やり抜く力）
- ・創造（主体的な学び、意欲）
- ・協調（自他を大切に、協力）

めざす生徒像（生きる力）

- ・知（確かな学力）
- ・徳（豊かな人間性）
- ・体（健やかな心と体）

**[青梅市学力向上5カ年計画]
育成すべき資質、能力**

- ・学びに向かう力、人間性等（継続）
- ・知識、技能（定着）
- ・思考力、判断力、表現力等（追究）

めざす学校像

- ・確かな学力の定着と向上に努める学校
- ・豊かな心の育成に努める学校
- ・夢や希望をもち、よりよい社会を創る意欲を高める学校
- ・安全できれいな学校
- ・生徒、家庭、地域から信頼される学校

「確かな学力の定着」とは

- ・基礎的、基本的な学力の定着を図ること。
 - ・発展的学習を通じた深い学びにつなげること。
- を個に応じた指導を通して、自分の力となるよう身に付けさせること。

本校の現状**【令和5年度全国学力学習状況調査の結果(3学年のみ)】**

- 東京都平均を約6～8ポイント下回る結果となった。どの教科も選択肢問題の無回答が低い一方で、短答式と記述式問題の無答率が都平均よりも低く、国語が約7ポイント、数学が約5.1ポイント、英語が約6.5ポイント低い結果となった。問題によっては約20ポイント低いものもあった。
- 自己肯定感が低く、「自分にはよいところがあると思いますか」の回答で肯定的回答が約66%で東京都より14ポイント低かった。「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的回答は76.5%ではあったが、東京都の平均より8.1ポイント低かった。「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の肯定的回答は41.1%とこれも東京都の平均より約15ポイント低かった。
- 一方調査した教科の「勉強は好きですか」の回答は国語45.1%、数学55%、英語43.1%と低かったが、「授業の内容はよくわかりますか」の回答は国語80.4%、数学80.4%、英語60.8%であり、思ったよりも高かった。

【令和5年度東京都児童生徒の学力向上を図るための調査（全校）】

- 「授業の内容はどのくらい分かりますか」の質問の肯定的回答は国語85.9%、社会88.6%、数学88%、理科92.6%、英語74.5%（各教科全校平均）となり、学年別では1年生が一番高かった。
- 一方「どのくらい得意ですか」の肯定的回答は国語33.5%、社会62.4%、数学59.7%、理科66.5%、英語45.6%となり学年があがると下がる傾向があった。（全教科平均で1年生約68%、3年生約45%であった）

本校の課題

- ・授業態度は良好で授業規律も保たれている。しかし主体的に学ぼうとする意識や最後まであきらめずに考えることには課題があり、教師が生徒の実態を把握して、主体的に学ぶ機会や個々の課題に応じて適切に支援しながら最後まで取り組ませるなど、定期的な授業改善が重要である。
- ・基礎的、基本的な学力の定着を通して自己肯定感や自尊意識を育成する。そのため生徒の取り組みに対して肯定的な言葉がけを増やすとともに、課題に対してはわかるまで丁寧に指導する。
- ・「確かな学力の定着」に向けて、授業において個々の課題がわかるよう振り返りをさせるとともに、学校と家庭が連携し家庭学習の定着を図る。

本校の学力向上に向けた取り組み

学びに向かう力、人間性等 （「継続」のために）

- ・個別最適化した学びに向け ICT を活用した授業に向けた機器の操作や教材開発を進める。
- ・「特別の教科道德」をはじめ、すべての教育活動を通して生徒の自尊感情の育成を図る。
- ・教師や SC 面談を通して生徒一人一人の課題を捉え、その改善に向けた手立てを一緒に考える。
- ・保護者会や面談を活用して学校と家庭の連携を図る。

知識、技能 （「定着」のために）

- ・一単位の授業で目当てと振り返りを行うことで個々の生徒の課題を明確化する
- ・習熟度での学習を通して個に応じた指導の充実を図る。
- ・教科横断的学習についての意識を高め、生徒が自分の知識を活用する力の伸長を図る。
- ・家庭学習の定着に向けて、保護者との連携を図る。
- ・放課後学習教室(ステップアップクラス)を生かして生徒一人一人の課題に応じた指導助言をすることで学習意欲の向上を図る。

思考力、判断力、表現力等 （「追究」のために）

- ・校長による授業観察(年3回)、各種学力調査、学校関係者評価、生徒、保護者へのアンケート(授業評価)を行う。
- ・教師が生徒の課題を把握し、その改善に向けて授業改善に取り組む。
- ・GIGA スクール構想の下、生徒の興味、関心を高める授業や、既習知識を活用する授業を設け、個に応じた学習や主体的な学びにつなげていく。
- ・表現力の向上を目指し、各教科等で発表する場面を授業に取り入れる。

中間評価(ここまでの取り組みと今後の課題)

○学びに向かう力、人間性等（「やる気」の育成）

- ・電子黒板等、ICT 機器を活用しやすくするため配置の見直しを行った。授業における電子黒板の活用が増えた。
- ・夏季休業開始後、全校三者面談を行い、学校や家庭での生徒情報を共有するとともに、夏季休業中の過ごし方(学習、生活)を確認することで、多くの生徒が有意義な夏休みにつなげることができた。

○知識、技能（「根気」の育成）

- ・一単位時間の中で、生徒が自己の課題を明確にするとともに、振り返りを通して粘り強く学習に取り組む姿勢を身につけられるよう、授業改善に取り組んだ。
- ・家庭学習の定着については依然課題となっている。今後も保護者と連携して進めていきたい。

○思考力、判断力、表現力等（「考える」の育成）

- ・個に応じた学習や主体的な学びを進めることで、「全国学力学習状況調査」の結果としては都平均を約2～3ポイント（前年度は5～8ポイント）下回ったものの全国平均は上回ることはできた。しかし短答式、記述式問題の解答率は都、全国共に下回るなど「思考、判断、表現」に課題が残った。

今年度の振り返りと次年度への課題

○学びに向かう力、人間性等（「やる気」の育成）

- ・教員は基礎的・基本的内容の繰り返しを行い、粘り強く学習する態度の育成に向けた授業改善に努めることで、生徒が主体的に学習する意欲を育むことにつなげることができた。
- ・今後も個別最適な学びに向け、ICT 機器の活用など授業改善を行い、教員のスキルアップを図っていく。

○知識、技能（「根気」の育成）

- ・生徒が粘り強く学習に取り組む姿勢を身につけられるよう授業改善を図っている。
- ・家庭学習の充実に向けた保護者との連携には課題が残った。
- ・今後も既習事項の定着に向け、授業改善や家庭学習の定着に向けた保護者との連携を進めていく。

○思考力、判断力、表現力等（「考える」の育成）

- ・各教科で身に着けた力を生かし、総合的な学習における生徒による発表の場面を設けたことで、表現力の向上につながっている。また ICT 機器を活用する機会が増えたことで、自分で調べまどめる力が向上した。
- ・「全国学力学習状況調査」における短答式、記述式問題の解答率を向上させるため、基礎的、基本的な学力の定着や表現力の向上を図るための授業改善を進める。

※ 今後も「個別最適化された学び」を充実させることで、一人一人の生徒の興味、関心を高め、生徒の確かな学力の伸長につなげていきたい。